

# 三作神楽クラブ

周南市立富田中学校

## 1 三作神楽の由来

周南市北西部の和田地区三作（林・原赤・中村の三自治会を合わせて三作という）に古くから伝承され、七年目ごと（卯年・酉年）の式年祭で地元河内社に奉納されてきた（令和5年11月に式年祭が行われた）。昭和62年に山口県の無形民俗文化財に指定され、平成12年に国の重要無形民俗文化財に指定された。三作神楽保存会は昭和45年に発足し、地元三作の全世帯を会員として、「神楽を永久に伝承すること」を会の目的としている。

## 2 三作神楽クラブ設置の目的と位置づけ

- (1) 三作神楽の舞や楽をとおして、身近な地域に積極的に関わる意識や態度を育て、郷土の伝統や文化を尊重する態度や、継承していこうとする意識を高める。
- (2) 和田地域と学校の連携を図る。
- (3) 伝統文化の維持・継承のための新たな担い手の発見・発掘・創出の再発見とする。
- (4) 生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育と連携しながら、社会教育として実施する。（参加の募集は学校が行う。）

## 3 三作神楽クラブ活動の概要

周南市立和田中学校の閉校に伴い、富田中学校の生徒を対象とした「三作神楽クラブ」を設立し、今年で活動3年目を迎えている。

- 4月30日（日）、富田中学校にて全校生徒を対象に、三作神楽保存会に舞を上演してもらい、三作神楽クラブのメンバーを募集する。



- 23名のクラブ員で活動を開始する。活動時間は原則、毎週水曜日（テスト週間、長期休業中・閉庁期間を除く）の放課後で、1時間程度の練習をした。

令和5年度は、計11回、富田中学校体育館で三作神楽保存会メンバーの指導のもとに練習を行った。



- 周南市からの要請により、8月1日（火）にデルフザイル姉妹都市調印式のアトラクションに出演した。両市長をはじめ関係者の前で、三作神楽の舞を披露した。楽師は保存会のメンバーと一緒に演奏をしたが、舞は、中学生が演じ、堂々とした演舞に対して絶賛の声があがった。



- 10月29日（日）の富田中学校文化祭で披露する。



- 11月12日（日）式年祭にて、三作神楽クラブが神楽を披露する。



- 12月17日（日）周南市文化会館にて開催された「しゅうなん郷土伝統芸能まつり」に出演する。



#### 4 成果と課題

コミュニティ・スクールの推進とともに学校と地域との連携教育の重要性が言われて久しい。本活動は、まさに地域連携活動の最たるものであり、伝統文化の継承、少子化による継承問題（存続問題）、地域活性化にも大きく寄与する活動ととらえており、今後の部活動の地域クラブ移行の先進事例とも言える。また、こうした活動は、生徒に、地域を大切にする、誇りに思う、ふるさとを愛する心情を育てることにもつながる。今年度、山口県教育会から地域活性化活動事業の助成をいただいたおかげで、地域とつながりのある活動をより効率的に展開することができたことに対して、心から感謝している。これからも、文字通り、地域活性化につながる取組を、学校と地域とがともに進めていきたいと考えている。